

少年の日の思い出

高橋健二・訳
たかはしけんじ
ヘルマン・ヘッセ

【前半・現在】

◇時

- ・夕方
- ・夕方の散歩から帰って
- ・昼間の明るさは消えうせようと
- ・していた
- ・もうすっかり暗くなっている

◇場所

- ・私の書斎

◇登場人物

○私

- ・一年前から、また、ちよう集め
- ・をやっている

○客

- ・小さい少年の頃、熱情的な収集
- ・家だった

○末の男の子

【後半・過去1（場面①）】

◇時

- ・十歳ぐらいになった二度目の夏

◇場所

- ・書かれていない

◇登場人物

○僕

- ・八、九歳のとき、ちよう集めを始めた
- ・ちよう集めのとりこ

○みんな

- ・何度も、僕にちよう集めをやめさせなければなるまい、と考えた

○両親

- ・立派な道具なんかくれなかった

○仲間

- ・ガラスの蓋のある木箱や、緑のガ―ゼをはった飼育箱や、その他ぜいたくなものを持っていた

○妹たち

【後半・過去1（場面②）】

◇時

- ・ 有的时候

◇場所

- ・ 書かれていない

◇登場人物

○僕

- ・ 僕らのところでは珍しい、青いコムラサキを捕らえた
- ・ 妬み、嘆賞しながら、エーミールを憎んでいた

○エーミール

- ・ 中庭の向こうに住んでいる先生
- ・ の息子
- ・ 非の打ちどころがない
- ・ 気味悪い性質
- ・ あらゆる点で模範少年
- ・ こっぴどい批評家



【後半・過去2（場面①）】

◇時

- ・二年たって

◇場所

- ・エーミールの部屋

◇登場人物

○エーミール

- ・クジャクヤママユをさなぎからかえした

○僕

- ・エーミールが不思議なちやうをもっていると聞くと、すっかり興奮してしまつて、それが見られるとき、の来るのが待ちきれなくなつた。
- ・例のちやうを見たいと、エーミールの部屋の中に入つた
- ・紙切れを取りのけたいという誘惑に負けて、留め針を抜いた
- ・この宝を手に入れたい、という逆らいがたい欲望を感じて、生まれて初めて盗みを犯した

【後半・過去2（場面②）】

◇時

- ・ ちようを右手に隠して、階段を下りたとき

◇場所

- ・ 階段

◇登場人物

○僕

- ・ 下の方から僕の方に上がってくるのを聞き、良心は目覚めた
- ・ 自分は盗みをした、下劣なやつだということを悟った
- ・ 見つかりはしないか、という恐ろしい不安に襲われてた
- ・ 大それた恥ずべきことをした
- ・ このちようを持っていることはできない、持っていてはならぬ
- ・ い、元に戻してできるなら、何事もなかったようにしておかなければならぬ
- ・ クジャクヤマユをつぶしてしまった

【後半・過去2（場面③）】

◇時

・夕方

◇場所

・僕の家

◇登場人物

○僕

・一切を母に打ち明ける勇気を起
こした

○母

・「エーミールのところへ行かなければ
なりません。」ときっぱり言った。



◆時

- ・夜

◆場所

- ・エーミールの家

◆登場人物

○エーミール

- ・誰かがクジャクヤママユをだいたしにしてしまった、悪いやつがやってのか、あるいは猫がやったのかわからない、と語った。

○僕

- ・それは僕がやったのだ、と言った
- ・僕のおもちやをみんなやる、と言った
- ・自分のちやうの収集を全部やる、と言った

○エーミール

- ・まるで世界のおきてを代表でもするかのように、冷然と、正義を盾に、あなどるように僕の前に立っていた

【後半・過去2（場面④）】

◇時

- ・僕にとってはもう遅い時刻

◇場所

- ・僕の家

◇登場人物

○母

- ・構わずにおいてくれた

○僕

- ・大きなとび色の厚紙の箱を寝台の上に乗せ、闇の中で開いた
- ・ちようを一つ一つ取り出した指で粉々に押しつぶしてしまった

